

否定・強調・倒置・省略の見取り図

年 組 番 名前 _____

この紙のゴール: not のとなりを見て部分否定と全否定を書き分け、強調構文と do の強調が読める

学び直しから始めるクラス 偏差値のめやす ~40程度 この版は否定の書き分け(部分否定・全否定)と、強調の2つの形までを扱います

気づき AとB、日本語にするとどちらも「みんなが賛成した、とは言えない」に見える。でも意味は正反対。どこがちがう？(30秒考えて、となりの人と答え合わせ)

A	Not all of the members agreed with the plan.	部員全員がその案に賛成したわけではない。(賛成した人もいる)
B	None of the members agreed with the plan.	部員はだれひとり賛成しなかった。(賛成した人はいない)

決め手はnot のとなりに何があるかです。Aは not と all がとなり合っているので、打ち消しているのは「賛成した」ではなく「全員」のほう—だから「全員ではない=何人かは賛成した」になります。Bの none は数そのものをゼロにしているので、賛成した人はいません。日本語の「みんな～ない」はどちらにも読めてしまうので、英語では形で決める必要があります。

整理 4つのわざ (打ち消しと強め方)

形	作り方	表すこと	例文
部分否定	not + all / every / always / both	全部が～というわけではない	Not all birds can fly. すべての鳥が飛べるわけではない。
全否定	no + 名詞 / none of ... / never	ひとつも～ない	None of my friends knew it. 友だちはだれも知らなかった。
強調構文	It is + 強調語 + that ... (人は who も)	～なのは…だ	It was my sister that called. 電話をくれたのは姉だった。
語で強調する	do / does / did + 原形 / the very + 名詞	本当に～なのだ/まさにその	I do want to go with you. 本当にいっしょに行きたい。

この4つが読めれば、この単元はまず十分です。手順はひとつだけ—not のとなりの語を見る。となりが all / every / always / both なら、打ち消されているのはその語で、「全部というわけではない」の意味になります。ゼロだと言いたいときは no / none / never を使います。強調は2つ: It is + 言いたい語 + that で前に出す形と、do + 原形で動詞を強める形です。

確認 () 内から正しいほうを選ぼう。 **知識・技能**

- (1) (Not / No) all birds can fly. Penguins cannot.
- (2) I am (none / not) always free on Sundays.
- (3) (It / That) was my sister that found my wallet.
- (4) I (much / do) want to join the team, but I have no time.

否定・強調・倒置・省略の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	Not	打ち消しているのは「飛べる」ではなく「すべての」のほう。not と all がとなり合っている。
(2)	not	not always = 「いつもというわけではない」。never なら「一度もひまではない」になる。
(3)	It	It is + 強調したい語 + that。ここでは「見つけたのは姉だ」と、だれかを前に出している。
(4)	do	動詞を強めるのは do + 原形。思いこみの打ち消しによく使う。

つまずき① 部分否定を全否定として読む

not のとなりに all / every / always / both があれば、打ち消されているのは**その語**です。「全部ではない」だけで、「ゼロだ」とは言っていません。

×

Not everyone in the club came, so the meeting was canceled.

→

○ No one in the club came, so the meeting was canceled.

「全員が来たわけではない」なら何人かは来ているので、中止の理由にならない。ゼロなら No one。

つまずき② 日本語の「みんな～ない」をそのまま All ... not で書く

All the students did not pass. は**どちらにも読めてしまう**ので避けます。「何人かは受かった」なら **Not all**、「ゼロ」なら **None of** と、最初から形で言い分けてください。

×

All the members of my class did not agree with the plan.

→

○ Not all the members of my class agreed with the plan.

「全員が賛成したわけではない」と言いたいなら Not all を文頭へ。ゼロなら None of the members agreed。

授業のひとこと 止まる原因は文法ではなく日本語の「みんな～ない」が2通りに読めることです。最初の2問は「受かった人はいる？ いない？」を日本語で確かめてから英語を選ばせてください。意味が決まれば形は自動的に決まります。